

## ほほえみの会

2010. 2. 14

バンクーバーオリンピックが始まりました。今回の注目はなんと言ってもスピードスケートに史上最年少で出場する高木美帆さん。スケートが速いだけでなく、ヒップホップを踊り、サッカーでは男子に混じってレギュラー選手、学校の成績もいいそうです。彼女は15歳、中学3年生。

15歳は思春期真っ只中で、高校受験も控える時期、高木さんだけでなく、すべての15歳はそれぞれの状況の中で、新しい世界への挑戦をしていることでしょう。

負けないで、泣かないで、消えてしまいそうな時は自分の声を信じて歩けばいいの・・・(アンジェラ・アキ) すべての15歳にエールを送ります。

### <176回 ほほえみの会>

5名の参加でした。浜松医科大学「小児がん治療中の親の会 すまいるハートの会」加藤さんも参加してくれました。

▽小学1年生、女子、急性リンパ性白血病 4歳年中時に発症した。スタンダードタイプで2年後に治ると言われて治療を始め、昨年10月の顕微鏡検査で問題はなかった。しかし、今年になって微熱が続き1月末のマルク検査で再発がわかる。化学療法に入ったが、このまま抗がん剤を続けるか、骨髄移植に踏み切るか判断を求められている。迷う。

参加者からは、同じ病気で抹消血移植を行って病気を克服し、いま大学生になっている方の体験談も語られました。

▽中学1年生、男子、悪性リンパ腫 運動クラブで活躍し元気だったが、昨年11月に足が痛いと言い出し、その後熱も出た。総合病院で診てもらったところその日のうちにこども病院へ。進行が早かったようだ。6回の抗がん剤治療の後、学校へ戻る予定でいるが髪の毛がどれだけ戻るのか本人が心配している。

また、知人から宗教の話がありショックを受けた。

▽浜松医大で親の会の代表をしている加藤さんは、もともと病気で亡くなった子供の親の会を5年前に立ち上げられたとのことですが、入院中の子供たちの環境改善になればと、治療中の親の会も昨年7月にスタートしたとのこと。浜松には大きな病院が多く、治療の方針や環境はそれぞれ違っているようですが、浜松医大はこども病院と連携も図られていて近い環境だということです。

▽県立こども病院「地域医療連携事業運営委員会」に出席しました。患者保護者代表として、フォローアップ外来の充実と、地域の病院とこども病院の連携、電子カルテや医師間の人間的交流など、小児がんが治る時代になり、それに合わせた医療体制の構築をお願いしました。その中で、フォローアップ外来が3年間の試験的事業であり、まもなくなくなるというお話がありました。次の展開を考えるということでしたが親としては存続を望む声は大きいと伝えました。会でもなくなると困る、何とかしてほしいという話がありました。浜松医大親の会の加藤さんからは、浜松医大でもフォローアップ外来ができた。しかし総合病院でありながらうまく機能していないという話がありました。

また、加藤さんからは浜松医大の親の会でも子供の先々の心配をされる方が多い。でも心配事を上げてもきりが無い。その事態になった時に考えればいい。また子供の成長は著しいので子供を信じて見守っていくことが大事だという話をしている、というお話がありました。

次回は3月14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>